

(別紙)

○国土交通大臣表彰

<受賞者名>

神戸モーダルシフト推進協議会、ネスレ日本株式会社、全国通運株式会社、日本貨物鉄道株式会社

<功績概要>

距離帯別に鉄道及び内航海運への戦略的モーダルシフトを行い、CO₂削減を実現するだけでなく、商品積載時にはパレタイズ運用を標準化することで、作業の効率化と生産性の維持・向上を実現した。また、ネスレ日本関連施設における保育施設をドライバーに解放するなど、女性・高齢者など多様な人材活用を可能とするダイバーシティ物流ネットワークの構築を進めている。

○国土交通省物流審議官表彰①

<受賞者名>

やまや商流株式会社、センコー株式会社、日本貨物鉄道株式会社、小倉運送株式会社、仙台運送株式会社、SBSロジコム株式会社、日本石油輸送株式会社

<功績概要>

従来、九州内の各製造元から東北・関東の配送センターへの輸送はトラックでの直接納品となっていた。転換後は、新たに福岡に設置する集約拠点への一括納品に切り換え、一度各製造元の貨物を福岡に集約、その後集約拠点から東北・関東の配送センターに鉄道で輸送を行うことにより、CO₂排出量の削減を実現した。

○国土交通省物流審議官表彰②

<受賞者名>

トナミ運輸株式会社、第一貨物株式会社、久留米運送株式会社

<功績概要>

申請者3社により、合併企業を立ち上げ、運営・システム等を共通プラットフォーム化するとともに、特積み貨物の幹線輸送を集約化。同時に一部区間でトラックから鉄道へのモーダルシフトを実施し、CO₂排出量の削減、労働生産性の向上を図った。

○グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

<受賞者名>

日本通運株式会社、富士フィルムロジスティクス株式会社、商船三井フェリー株式会社、日本貨物鉄道株式会社

<功績概要>

静岡県と福岡県の間で輸送していた富士フィルム貨物及び資材を、トラックから海上輸送及び鉄道輸送に転換。CO₂排出量を削減するとともに、トラックの大型化により輸送能力が上昇させ、さらにトラック走行距離減に伴いドライバーへの負担を軽減させた。

【参考】

○経済産業大臣表彰

＜受賞者名＞

イオングローバルSCM株式会社、日本貨物鉄道株式会社、全国通運株式会社

＜功績概要＞

日曜日に運休となるダイヤを活用して貨物輸送用の臨時列車を運行することで、イオンを始めとする異業種の荷主企業の貨物輸送に関して鉄道輸送へのモーダルシフトを推進し、CO₂ 排出量削減や繁忙期の輸送力向上を図った取組。

○経済産業省商務流通保安審議官表彰

＜受賞者名＞

TOTO株式会社、TOTOハイリビング株式会社、クリナップ株式会社、クリナップロジスティクス株式会社

＜功績概要＞

配送時間指定の緩和や車種指定の緩和といった既存の商慣習を変えることで、クリナップの配送網にTOTOの商品を取り込む形の協同配送を実現し、トラックの車両台数の削減、積載率の向上を実現した取組。

○グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

＜受賞者名＞

出光興産株式会社、旭タンカー株式会社

＜功績概要＞

出光興産が利用している内航タンカーを内外航兼用化し、船舶稼働の繁閑格差を減少させることで、安定供給力や船舶稼働効率の向上とCO₂ 排出量の削減を実現した取組。